



介護支援専門員 協会ニュース

第3号

令和 6 年 3 月 発行

発行所：一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会

徳島市末広2丁目1番80号 ☎088-678-4200 <https://cma-tokushima.com/>

挨拶

徳島県介護支援専門員協会の深化と推進

一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会 理事長 山口 浩志

本年元旦に発災した「令和6年能登半島地震」によって被災された多くの方々に對しまして心からお見舞い申し上げますとともに、一日でも早い復旧復興をお祈り申し上げます。

被災した能登半島市町では、生まれてからずっと過ごしてきた地域で仲間たちと共に最後まで暮らしたいと願う人が多いと聞きます。そういう意味では、この度の災害によってたくさんの深い爪痕が残されたことでしょう。

ひとつには、事前に避難所登録されていた施設が、ライフラインの遮断により機能しなくなったり、職員自身も被災者となっていたりで、地元の介護支援専門員は、発災初期は約2割しか動けず、またご利用されていた高齢者も徐々に避難所へ受け入れが始まったりで、このあたりの備えからの想定面においては課題が残されたと思います。

そしてこのことは私たちにとりましても、決して対岸の火事でなく、自らの今後の教訓として考えなければなりません。

令和6年(2024年)をもちまして、徳島県介護支援専門員協会は設立25年を迎える節目の年となります。この25年の歴史をつくりあげてきた先輩方の教えを胸に刻み、今後の協会発展や会員の皆さま及び地域に役立てるよう、これからも責任をもって運営を進めていかねばなりません。また今後の課題に向けて、荒波を乗り越えていくためには、新たな挑戦もいとわない気持ちが大事な年でもあります。

そういった意味では、地域毎の将来展望のためにも、組織改編に取り組ませていただきたいと思います。例えば、災害対策委員会の開設です。これまで、日本介護支援専門員協会主催の「災害支援ケアマネジャー養成研修」に県協会からの推薦で毎年受講者を輩出しております。そういった方が今後は地域災害支援リーダーとなり、圏域内にて災害支援ケアマネジャー養成に取り組み、有事に備えるべきことを地域内で共有し、協力体制を構築していける人材育成にかかりたいと考えております。

元旦徳島新聞社説に、「徳島県人口は50年に48万人となり20年の72万人から33%の減少が予想されている。」とありました。住民自治の力を高めないと地域が成り立たなくなり、「小さなみんなの居場所づくり」が今後のポイントであると締めくくられています。

この記事にあやかり、介護支援専門員同士の居場所や、多職種間の居場所づくりで、職種間や圏域の垣根を超えた日頃からの協力体制が不可欠となるでしょう。

そういったことから、今後とも協会運営に對しまして、多くの皆さま方からの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます協会ニュース発刊のご挨拶とさせていただきます。



一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会 令和5年度 定時総会

令和5年5月21日(日)一般社団法人徳島県介護支援専門員協会(令和5年度定時総会)が開催されました。一般社団法人日本介護支援専門員協会 柴口会長、一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会 山口理事長よりご挨拶をいただきました。会場参加:49名、委任状:190名、合計239名の参加をいただきました。

基調講演では、一般社団法人日本介護支援専門員協会 柴口会長をお招きし、「介護支援専門員を取り巻く現状と課題～次期介護保険制度改正の動向とケアマネジメントについて～」をテーマにご講演をいただきました。今後の課題として地域包括ケアシステムの推進を挙げられ、居宅会議支援について、質の向上や業務効率化などを図る観点から、適切なケアマネジメント手法を図る方策を検討するとともに、より適切なケアマネジメント手法の実効性が担保されるような方策についてが、必要になってくるとのことでした。

記念講演では、厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 秋山仁様をお招きし、「介護現場における生産性向上について～ケアプランデータ連携システムを活かす～」をテーマにご講演をいただきました。生産性向上の取り組みに向けて、介護現場としては、現場の困りごとを把握し、業務の改善を図っていくという流れが現場に定着することにより、働きやすい現場づくり、働く人のモチベーションの向上を図り、ひいては介護サービスの向上につながると述べられていました。介護現場における生産性向上は、他分野とは異なり、単に負担を軽くすることが目的でなく、その先に「介護サービスの質の向上」があることを意識する必要がある、生産性向上の取り組みを通じて、従業員のモチベーション向上や、より良い職場環境を実現し、上位目的である介護サービスの質の向上を達成することが重要であるとのことでした。



(厚労省 秋山仁氏による講演)

委員会総会

令和5年7月8日(土)に一般社団法人委員会総会が対面で開催されました。一般社団法人徳島県介護支援専門員協会(令和5年度定時総会)が開催されました。一般社団法人徳島県介護支援専門員協会 山口理事長よりご挨拶をいただきました。

各支部活動が開始し、1年が経過したこともあり、昨年とはまた一つ違った雰囲気での会議が進行しました。研修会の企画も盛りだくさんで、今年度も各支部活動が楽しみです。



(山口理事長ご挨拶)



(各委員会の話し合い)

一般社団法人 日本介護支援専門員協会 令和5年度 第9回 四国ブロック研究大会

令和6年2月10日(土)に徳島県のあわぎんホールにて一般社団法人日本介護支援専門員協会 令和5年度第9回四国ブロック研究大会in徳島が開催されました。

大会テーマを「命をつなぐ災害対策～全ての人につながる支援を目指して～」と掲げ、本大会はハイブリット開催で会場参加者:90名、オンライン参加者:48名の方が聴講されました。

能登半島地震の被害を受けて、「災害は各都道府県支部のみではなく、四国ブロックで支援し、協力して取り組みを行う必要があります、今回の大会を通して、そのきっかけとなる研修となれるように」と主催者を代表して徳島県介護支援専門員協会 山口浩志理事長のご挨拶で開会しました。

ご臨席賜りました後藤田正純 徳島県知事からも、「本県も平時のみでなく、有事の際にも協力をしていく体制を強化していきます。皆さんの協力もお願いします」とお言葉をいただきました。

基調講演では「持続可能な介護サービスを考える～BCPの義務化を踏まえて～」と題して、ミネルヴァベリタス株式会社顧問の本田茂樹先生にご講演いただきました。

命をつなぐ災害対策には、医療と介護の連携が重要であり、医療制度・介護制度のバランスにおいてはどちらかが欠けても成り立たないとのことでした。そのためにも地域包括ケアシステムの構築を図り、将来にわたって、持続的に実現していくことが医療・介護には重要であると仰られていました。

特別講演では、「日本介護支援専門員協会の活動報告と今後の取り組み」と題して、一般社団法人日本介護支援専門員協会の柴口里則会長にご講演いただきました。

日本唯一の介護支援専門員個人を会員とする職能団体として、設立後23年が経過しました。今後の活動としては、自分たちが何をしていくのかを自ら考え、その声を国につなぐ役割を担う組織を目指していくとのことでした。また、職能団体としての存在意義として、制度設計や報酬改定へ自分の声を反映させることや、介護支援専門員の地位を向上させるためにも、必要な組織であると仰られていました。



(ミネルヴァベリタス株式会社顧問の本田茂樹先生)



(四国4県役員)

ヤングケアラー

一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会 副理事長 中 健太郎

今年度も昨年に引き続き、徳島県の委託事業として高齢者介護分野における「つなぐヤングケアラー等支援事業」を進めていきました。昨年度は県内の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター、市町村の高齢支援担当への実態調査を実施し、県内の高齢支援分野におけるヤングケアラーに対しての支援状況や課題を確認し、県に報告しました。

今年度は昨年の実態調査を踏まえて、「徳島県高齢者介護分野におけるヤングケアラー支援マニュアル及びチェックリスト」の作成とともに、介護支援専門員を中心とした県内ヤングケアラー支援関係者を対象に「高齢者介護分野における【つなぐヤングケアラー等支援事業】研修」を特定非営利活動法人ふうせんの会常務理事南多恵子氏並びにヤングケアラーの当事者である特定非営利活動法人ふうせんの会運営メンバーの川寄大介氏を講師にお招きし、令和6年1月25日(木)、徳島グランヴィリオホテルにて開催しました。当日は会場57名、オンライン70名の参加がありました。

最初に「徳島県高齢者介護分野におけるヤングケアラー支援マニュアル(暫定版)」を当協会副理事長の中より説明しました。ヤングケアラー自身は自らが置かれている状況が特別なものと感じていないことも多く、本人からサポートを求めてくるのが難しいと推察されます。そのため介護支援専門員を含めた支援者が、いち早くヤングケアラーを支援することが重要であることから、高齢者介護分野に特化したマニュアルとチェックシートを作成したことや、ヤングケアラーの可能性のある家庭を発見した時は、ヤングケアラー支援マニュアルを参考にしながら、適切な部門につなげていくことが重要であり、そのためにも日ごろから日常的に連絡を取る機会のない児童分野等の他分野の役割を把握しておくことが大切であると話しがありました。次に特定非営利活動法人ふうせんの会常務理事 南多恵子氏により、ヤングケアラー支援に向けた現状と高齢者介護分野の専門職に期待することと題して講演がありました。ヤングケアラーの定義やヤングケアラーが抱える現状、これから取り組まなければならない課題や介護支援専門員としてヤングケアラー問題にどうかかわっていくべきかなどをお話いただきました。その後、特定非営利活動法人ふうせんの会の運営メンバーであり、元ヤングケアラーの川寄大介氏が幼少期からのヤングケアラーとしての体験談を傾聴しました。その時は「この生活が当たり前」と思って生活していたこと、もっと専門職の支援があれば自分らしい生活を送ることができたかもしれないことなどの話しがありました。参加者同士での意見交換の場では、今なら、当時の川寄氏に対してどのような支援ができたのかというテーマで話し合いました。参加者それぞれの立場から、有意義な意見交換ができたようでした。

令和6年度の制度改正により、居宅介護支援事業所の特定事業所加算の算定要件に「ヤングケアラー」を含めた様々な問題のケースについて取り組むことが定められました。当協会では引き続きヤングケアラーを含めた様々な問題に取り組み、会員に対して有意義な研修や情報提供ができるように努めていきます。



(つなぐヤングケアラー等支援事業研修会)

令和6年 能登半島地震における支援活動を振り返る

日本介護支援専門員協会 災害対策特別委員会 主担当 山口 浩志

この度の能登半島地震では、私は現地コーディネーターとして1月17日より活動に取り組むこととなりました。活動場所としては、金沢市内の「いしかわ総合スポーツセンター(以下スポセン)」内に設置された「1.5次避難所」での支援活動でした。能登半島被災地においてライフラインが遮断されてことから、在宅や介護福祉施設のご高齢者が地域避難所で生活することが厳しい方たちが次の行先が決まるまでの支援でした。

ここでの日本介護支援専門員協会としての役割は、受け入れた入居者(避難所への入居者との対応でした)のスクリーニング(基本情報収集)、アセスメントと、次の施設への受け入れ先交渉、家族への連絡等でした。始めのうちは受け入れ先も順調に決定し、移動手段に関しても円滑に進められたのですが、次第と入居者の長期化が課題となり、一方では入居されている方は、1.5次避難所から離れたくないという声があがり出す現状が出てきました。

考察としては、まず1.5次避難所では、他の専門職チームとの情報交換や役割の連携が重要なポイントでした。2つ目として私たちはあくまでも県外からの支援活動であり、最終的には地元介護支援専門員の方が継続的に支援がしやすいような体制づくりの構築をしなければならないことで、石川県介護支援専門員協会の方針も確認しながら取り組まねばならないことです。



(いしかわ総合スポーツセンター)

日本介護支援専門員協会 災害対策特別委員会 委員 伊庭 利光

日本介護支援専門員協会(以下:日本協会)ボランティア登録により2/14(水)～2/17(土)にかけて、輪島市へ被災地支援に赴きました。被災地はいまだ手付かずといった状況で多くの家屋が倒壊し、道路はいたるところで陥没や崩落が起きて渋滞が目立っていました。現地では日本協会ボランティア派遣と、市内の包括支援センターや居宅介護支援のケアマネジャーが2人1グループを編成し、避難所に身を寄せている要配慮者の災害アセスメントを行いました。計6か所の避難所で約30名の要配慮者に家族生活状況、健康状態や医療と介護保険情報のほか、1.5次や2次避難所への移行ニーズ、仮設住宅申込み状況を確認して周りましたが、被災地支援においては要配慮者の心情に寄り添い、共感を心がけ専門職として初心回帰が肝要であることを実感しました。

活動中に現地のケアマネジャーと意見交換をする機会がありましたが、BCP作成と発災時の活用、その効果などについて伺ったところ、災害を実体験した声は想定していた答えと大きく異なっていました。とにかく初動は「身を守ること、逃げること、知らせること」が重要で、あらためて発災時期や出勤状況、利用状況などを変えて想定訓練を繰り返し、施設の実情に即したBCPのブラッシュアップは早急に取り組まなければならないと痛感しました。活動前は少なからず不安があり、後ろ向きな気持ちもありましたが、被災地の実態を直に見て、生の声を多く聞くことができたことは代えがたい経験を得られました。その後メディアで被災地の情報に触れるたびに活動を共にした方は今、どうしているだろうかと、心の中で思いを寄せることを繰り返しています。短期間で限られた活動だったことや、もどかしい気持ちを覚えることも少なくありません。使命感にも似た気持ちを感じており、この経験を自らの地域と施設で今後の活動に活かしていきます。



(日本協会が設営したトレーラーハウス)



(活動を共にした皆様と)

各支部紹介

【東部支部】

ケアマネジャーの生の声を聴くこと。その生の声を拾い上げて実践していくことを目標にして参りました。今後も発展的に進化できる支部運営ができますよう精進していきます。第1回目の交流会にて今年度開催して欲しい研修等の意見を聴取し、そのニーズをもとに研修会や交流会を含めた活動を年間5回開催しました。なかでも本支部は川内町と応神町をのぞく徳島市、神山町、石井町、佐那河内村、勝浦町、上勝町と担当地域が広いことを強みに捉え、地域リーダーにそれぞれの地域にある社会資源の特徴を発表してもらった交流会は有意義なものとなりました。そして実施指導やケアプラン点検など気になることが質問できる駆け込み寺交流会は好評のため2回開催しました。



(ケアマネ塾第一弾 事例を元にわかりやすく説明を行い、各グループディスカッションを実施)

【北部支部】

本支部では、2年目となる今年度のテーマとして敷居を下げ、門戸を広げ「多くの人が参加できる」ことを目標に取り組みました。

支部独自で行った研修会は、①オープン事例検討会、②多職種交流会、③ケアプラン点検・運営指導研修会を行いました。

- ①主任ケアマネ以外でも、観察者として「見るだけ」でも、参加可能としたり、事例提出や質問をするのは不安で自信もないけど、事例検討会は見てみたい。という方も参加できる事例検討会を開催しました。
- ②幅広い参加として、圏域内の居宅・包括以外にも訪問介護・通所介護の全事業所にFAXで参加を呼びかけ、事業所から居宅や参加事業所に向けてのPRタイムを実施しました。
- ③匿名で質問できるシステムの活用を行い、「こんな質問していいのか、どう思われるのか不安。恥ずかしい」といったハードルがない質疑応答タイムを設けました。今年度は役員や委員の方の協力により、今までと少し違った研修会が行えました。来年度以降も、会員の声を聴き、その声に応え、「協会に入ってよかった」「仲間を誘いたい」と思ってもらえる支部活動を行っていきたいと考えています。



(多職種交流会)



(地域の事業所によるPRタイム)

各支部紹介

【西部支部】

今年度、西部支部では寺嶋吉保先生を招き「施設におけるターミナルケア・ACP研修会」を催しました。ターミナルケアを行う高齢者施設においては医療と介護の両サイドで徐々に互いの役割や現状の理解が促進され、医師が高齢者施設を訪ねて、看介護職が取り組むターミナルケアの実際を見ることも必要と学びました。また、担当者会議等においては、自らの意思が示される時からACPを取り入れることが望ましく、その結果、家族も不安や抑うつが軽減され、スタッフも円滑なコミュニケーションが図られることによりストレスが緩和される効果について学びました。また、圏域内3事業所のケアマネジャーからシンポジウム形式でターミナルケア事例報告があり、家族もスタッフも満足度の高かった看取り事例や残された課題について報告、意見交換が行われました。

その他の研修では「課題整理総括表ならびに居宅サービス計画書1表の書き方研修会」も催し、いずれも大勢のケアマネジャーが参加してくれました。



(課題整理総括表の書き方研修会の様子)



(居宅サービス計画書 表の書き方研修会の様子)

【南部支部】

本支部は、小松島市・阿南市・那賀町・美波町・牟岐町・海陽町に住所または勤務先のあるケアマネジャーで構成され、会員数は59名の小規模な支部です。顔見知りが多く和気あいあいとした支部活動が行えるのが特徴的です。今年度は、初めてのオープン相談会を開催し、参加者から多くの質問がありました。支部研修では「居宅介護支援経過記録の書き方のポイントについて」と題して、松本副支部長が行いました。2024年度介護保険制度改正のポイントをミニ講義として、本協会の中副理事長から詳しく説明がありました。地域のケアマネジャーの関係作りやスキルアップの機会を増やすため、今後も活動を行っていきます。まだ入会されていないケアマネジャーがいっぱいいましたら、ぜひお声がけいただき、一緒に活動していただければ幸いです。



(2024年度介護保険制度改正のポイント ミニ講座)



(コミュニケーション研修会)

令和5年度 一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会委員会名簿(常置委員会)

【運営委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	松本 隆子	委員長	看護師	居宅介護支援事業所大神子
2	黒田 景子	副委員長	理学療法士	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
3	石田 直子	副委員長	介護福祉士	徳島県看護協会 指定居宅介護支援事業所徳島
4	笹賀美代子	委 員	看護師	四国大学看護学部
5	佐藤 香織	委 員	看護師	徳島市医師会居宅介護サービスセンター
6	小林 利恵	委 員	介護福祉士	由岐町在宅介護支援センター
7	岸田 委子	委 員	介護福祉士	どなり指定居宅介護支援事業所
8	河野 竹美	委 員	介護福祉士	すだちの園指定居宅介護支援事業所
9	山本 智美	委 員	介護福祉士	穂波園指定居宅介護支援事業所

【学術研修委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	湯浅 雅志	委員長	社会福祉士	那賀町地域包括支援センター
2	荒岡 晶子	副委員長	社会福祉士	はちどり居宅介護支援事業所
3	佐藤 禎太	副委員長	社会福祉士	白寿会在宅介護支援センター
4	那賀川明美	委 員	歯科衛生士	社会福祉法人健祥会
5	藤田 和恵	委 員	薬剤師	スマイル調剤薬局 健康館
6	竹内 理恵	委 員	看護師	海陽町地域包括支援センター
7	五島 美紀	委 員	社会福祉士	三好市社会福祉協議会
8	西浦久美子	委 員	社会福祉士	徳島市地域包括支援センター
9	美馬健一郎	委 員	介護福祉士	緑樹会おおつ居宅介護支援事業所

【業務委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	山本あけみ	委員長	看護師	介護老人保健施設悠心館
2	東條喜代美	副委員長	看護師	徳島市医師会居宅介護サービスセンター
3	鎌田 俊樹	副委員長	介護福祉士	(株)グローバルアシスト
4	野口 詠司	委 員	介護福祉士	徳島市地域包括支援センター
5	栗原 貴司	委 員	介護福祉士	たまき青空居宅介護支援事業所
6	小山まゆみ	委 員	介護福祉士	村山内科指定居宅介護支援事業所
7	四宮 明子	委 員	介護福祉士	桃居宅介護支援事業所
8	井上富久美	委 員	介護福祉士	ケアプランセンターゆいまーる
9	宮繁知華子	委 員	介護福祉士	ケアプランセンターゆいまーる
10	矢野 友美	委 員	看護師	一般社団法人板野郡医師会

【広報委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	今富 裕之	委員長	理学療法士	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
2	黒田 玲子	副委員長	介護福祉士	医療法人緑会 あい愛介護相談室
3	東山 祐陽	副委員長	歯科医師	ひがしやま歯科医院
4	四宮 正貴	委 員	作業療法士	介護老人保健施設ライフ慈友館
5	松島 栄作	委 員	社会福祉士	鳴門市地域包括支援センターひだまり
6	仁木 康統	委 員	介護福祉士	指定居宅介護支援事業所あゆむ
7	松浦美智代	委 員	介護福祉士	村山内科指定居宅介護支援事業所

【施設委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	伊庭 利光	委員長	介護福祉士	医療法人芳越会 介護施設事業部
2	光田奈津子	副委員長	介護福祉士	昂指定居宅介護支援事業所
3	西川 珠姫	副委員長	介護福祉士	あさがお福祉会法人本部
4	前川沙緒里	委 員	社会福祉士	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
5	伊沢 英邦	委 員	介護福祉士	ウィズ双葉
6	貴田 幸伸	委 員	介護福祉士	特別養護老人ホーム神山すだち園
7	久世 光洋	委 員	社会福祉士	介護老人福祉施設ヴィラ羽ノ浦
8	坂口 明美	委 員	理学療法士	中谷医院グループホームあいの里
9	篠原千恵美	委 員	介護福祉士	ケアサポートしのはら
10	三好みゆき	委 員	介護福祉士	藍寿園居宅介護支援事業所
11	福原亜希子	委 員	社会福祉士	村山内科指定居宅介護支援事業所

【主任介護支援専門員委員会】

	氏 名	役 職	職 種	勤 務 先
1	橋本 美香	委員長	看護師	徳島県看護協会 指定居宅介護支援事業所徳島
2	福本 誠司	副委員長	相談援助業務	特定非営利活動法人どりーまおサービス
3	荻田 靖子	副委員長	社会福祉士	徳島市医師会居宅介護サービスセンター
4	奥村 滋子	委 員	看護師	在宅介護支援センターてらさわ
5	佐藤 良江	委 員	社会福祉士	小松島市在宅介護支援センターすだち
6	大森 匡美	委 員	介護福祉士	平成在宅介護支援センター
7	中川 陽子	委 員	看護師	マンナ在宅介護支援ミルトス
8	大西 充記	委 員	介護福祉士	阿南南部高齢者お世話センター
9	黒下 聡美	委 員	社会福祉士	白寿会西部在宅介護支援センター
10	細国 和子	委 員	介護福祉士	鳴門市基幹型地域包括支援センター

令和5年度 一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会委員会名簿(特別委員会)

【専門Ⅱ研修講師検討会議】

	役 職	氏 名	勤 務 先	備 考
1	委 員 長	中 東 勢 治	社会福祉法人白寿会 白寿会西部	
2	副 委 員 長	中 健 太 郎	セントラル介護経営事務所	
3	委 員	位 頭 薫	ケアプランセンターゆいまーる	
4	委 員	黒 田 景 子	医療法人平成博愛会 博愛記念病院	

【生涯学習委員会】

	役 職	氏 名	勤 務 先	備 考
1	委 員 長	位 頭 薫	ケアプランセンターゆいまーる	
2	副 委 員 長	中 東 勢 治	社会福祉法人白寿会 白寿会西部	
3	副 委 員 長	中 健 太 郎	セントラル介護経営事務所	
4	委 員	荻 田 靖 子	徳島市医師会居宅介護サービスセンター	
5	委 員	奥 村 滋 子	在宅介護支援センターてらさわ	
6	委 員	大 森 匡 美	平成在宅介護支援センター	
7	委 員	宮 繁 知華子	ケアプランセンターゆいまーる	
8	委 員	井 上 富久美	ケアプランセンターゆいまーる	
9	委 員	北 谷 和 子	吉野川市医師会居宅介護支援事業所	
10	委 員	河 野 竹 美	すだちの園指定居宅介護支援事業所	
11	委 員	四 宮 明 子	柁居宅介護支援事業所	
12	委 員	黒 下 聡 美	白寿会西部在宅介護支援センター	
13	委 員	野 口 詠 司	徳島市地域包括支援センター	

【地域包括推進委員会】

	役 職	氏 名	勤 務 先	備 考
1	委 員 長	中 東 勢 治	社会福祉法人白寿会 白寿会西部	
2	副 委 員 長	中 健 太 郎	セントラル介護経営事務所	
3	委 員	位 頭 薫	ケアプランセンターゆいまーる	
4	委 員	乾 万 里 子		
5	委 員	石 田 直 子	徳島県看護協会 指定居宅介護支援事業所徳島	

【倫理委員会】

	役 職	氏 名	勤 務 先	備 考
1	委 員 長	中 健 太 郎	セントラル介護経営事務所	
2	副 委 員 長	中 東 勢 治	社会福祉法人白寿会 白寿会西部	
3	委 員	保 岡 正 治	医療法人あさがお会 保岡クリニック論田病院	
4	委 員	佐 藤 修 斎	佐藤歯科医院	
5	委 員	位 頭 薫	ケアプランセンターゆいまーる	
6	委 員	中 谷 哲 也	中谷医院	
7	委 員	邊 見 知恵子	公益社団法人徳島県看護協会	

令和4年・5年度 一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会 顧問・役員

(1) 顧問

	役 職	氏 名	職 種	所 属
1	最高顧問	武 久 洋 三	医 師	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
2	顧 問	津 田 祐 子	看 護 師	学校法人四国大学短期大学部

(2) 理事

	役 職	区分	氏 名	職 種	所 属
1	理 事 長	本部	山 口 浩 志	社会福祉士	特定非営利活動法人どりーまあサービス
2	副理事長	本部	保 岡 正 治	医 師	徳島県慢性期医療協会 (医療法人あさがお会 保岡クリニック論田病院)
3	副理事長 (東部担当)	本部	佐 藤 修 斎	歯 科 医 師	一般社団法人徳島県歯科医師会 (佐藤歯科医院)
4	副理事長 (北部担当)	本部	中 東 勢 治	介護福祉士	社会福祉法人白寿会 白寿会西部
5	副理事長 (南部担当)	本部	中 健太郎	介護福祉士	セントラル介護経営事務所
6	副理事長 (西部担当)	本部	位 頭 薫	歯科衛生士	特定非営利活動法人ゆいまー ケアプランセンターゆいまー
7	理 事	本部	中 谷 哲 也	医 師	一般社団法人徳島県医師会 (中谷医院)
8	理 事	本部	邊 見 知恵子	看 護 師	公益社団法人徳島県看護協会
9	理 事	本部	今 富 裕 之	理学療法士	公益社団法人徳島県理学療法士会 (医療法人平成博愛会 博愛記念病院)
10	理 事 (支部長)	東部	橋 本 美 香	看 護 師	公益社団法人徳島県看護協会 指定居宅介護支援事業所徳島
11	理 事	東部	東 條 喜代美	看 護 師	一般社団法人徳島市医師会 居宅介護サービスセンター
12	理 事	東部	黒 田 景 子	理学療法士	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
13	理 事 (支部長)	北部	福 本 誠 司	相談援助業務	特定非営利活動法人どりーまあサービス
14	理 事	北部	光 田 奈津子	介護福祉士	社会医療法人凌雲会 昂指定居宅介護支援事業所
15	理 事	北部	黒 田 玲 子	介護福祉士	医療法人緑会 あい愛介護相談室
16	理 事 (支部長)	南部	山 本 あけみ	看 護 師	医療法人新心会 馬原医院・介護老人保健施設悠心館
17	理 事	南部	湯 浅 雅 志	社会福祉士	那賀町地域包括支援センター
18	理 事	南部	松 本 隆 子	看 護 師	医療法人道志社 居宅介護支援事業所大神子
19	理 事 (支部長)	西部	伊 庭 利 光	介護福祉士	医療法人芳越会 介護施設事業部
20	理 事	西部	荒 岡 晶 子	社会福祉士	合同会社はちどり

(3) 監事

	役 職	氏 名	職 種	所 属
1	監 事	松 本 正 子	保 健 師	元徳島県介護支援専門員協会事務局長
2	監 事	田 村 正 江	看 護 師	社会福祉法人白寿会 在宅介護支援センター

一般社団法人徳島県介護支援専門員協会への入会には一般社団法人日本介護支援専門員協会への入会が必要となります。入会は、当協会のホームページからお申し込みいただけます。

当協会のホームページは右記のアドレスとなります。

<https://cma-tokushima.com/>

もしくは右記 QR コードの入会申込フォームからお申込みください。

【会費】※入会金は入会時のみ

徳島県介護支援専門員協会 正会員	入会金	1,000 円
	年会費	3,000 円

日本介護支援専門員協会 正会員	入会金	1,000 円
	年会費	5,000 円

ケアマネ協会入会申込フォーム

